

Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

114

2025



日本大学芸術学部
校友会ホームページ



日本大学
芸術学部
校友会

CONTENTS

第19回 日藝賞	04
新主任の挨拶	05
野田慶人元芸術学部長との思い出	06
学科ニュース	
写真学科・映画学科	08
美術学科・音楽学科	09
文芸学科・演劇学科	10
放送学科・デザイン学科	11
皆さん今日は！	12
卒業生ストーリー「今、ここで。」	14
江古田会ニュース	
北海道江古田会・青森江古田会	16
秋田江古田会・岩手江古田会	17
山形江古田会・宮城江古田会	18
新潟江古田会・ふくしま江古田会	19
石川江古田会・長野江古田会	20
東京江古田会・愛知江古田会	21
岡山江古田会・佐賀江古田会	22
熊本江古田会・宮崎江古田会	23
鹿児島江古田会・台湾江古田会	24
ウンレン・ブンレン 運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中	25
昭和100年 50年前の江古田 プレイバック！	26
日芸祭報告	28
野田慶人先生を偲ぶ会／今昔江古田B級グルメ	29
校友会からのお知らせ	30
編集後記	31

表紙作品 東 倫太郎（2024年度卒）
「蹄跡は風と共に」

競馬の熱狂に魅了された私は、海外競馬に興味を持つようになった。そこで、近代競馬発祥の地イギリスをはじめ各国を巡り、人馬が織りなす瞬間の美しさや、土地に根ざした文化の表情を切り取った。
首都ロンドンから北へ約100キロ、サフォーク州ニューマーケットは競馬の街として知られる。1600年代に狩猟のため王室の保養地として栄えたこの街は、邸宅や厩舎が建ち、競馬産業の基盤が築かれた。
調教は夜明け前から始まる。9月でも気温10度を下回る中、朝露が光る草原でトレーニングを終えた人馬は、降り注ぐ朝日を背に厩舎への帰路につく。馬と人が共に刻んできた蹄跡は今日も続く。



● 総 会
日 時：令和7年7月5日（土）15時～
会 場：日本大学芸術学部に
※当日正門にてご案内いたします。

議 題	
1. 会務報告	5. 会則改定
2. 各委員会活動報告	（副会長・常任幹事の定数について）
3. 会計報告	6. 推薦会員について
4. 予算審議	7. その他



●懇親会

日 時：総会終了後17時からの予定

- ・喜寿を超えられた卒業生…ご招待
- ・それ以外の卒業生…5,000円(予定)

※総会が長引いた場合は終了後ただちに懇親会に移ります。

同封の返信はがきにご記入の上、必ず
投函をお願いいたします。

当日はお車でのご来校はご遠慮ください。

●日本大学芸術学部江古田キャンパス



第19回 日藝賞

今年度第19回日藝賞に脚本家・小説家の吉田 恵里香さんが選ばれました。

日藝賞は、著しく日藝の名声を高めその業績が社会に貢献し芸術を志す学生に夢を与える人物に贈られます。選考対象は、中退者も含めかつて日藝に在籍していたことのある人すべて。活躍分野は一切問いません。在校生、教職員、校友会役員などによる投票を基に決定します。

日 藝賞が始まったのは私が大学に入学した年でした。
在学時、受賞された先輩方の講演を見ながら漠然と

「いつか自分もここに立ちたい、立つんだ」と思い、卒業してからも思い続けてきました。
ですので、念願の日藝賞をいただくことができて大変光栄ですし、身の引き締まる思いです。
在校生の皆さんにも「いつかこの賞がもらいたい」と思ってもらえるように
これからも創作活動に尽力していきます。

近年、芸術・エンターテインメントの役割がより大きくなっている気がしています。
娯楽であり、誰かの生きる糧であり、より良い社会と平和を訴える術でもあります。
何を背負い歩んでいくかは創作者のそれぞれ自由ですが、
せめて時代を逆行せずに前を進み続けていきたいですね。

吉田 恵里香

1987年生まれ、神奈川県出身。

脚本家・小説家。

主な執筆作品は、
NHK2024年度前期連続テレビ小説「虎に翼」「花のち晴れ〜花男Next Season」「Heaven?〜ご苦楽レストラン」「君の花になる」(TBS系)、アニメ「ぼっち・ざ・ろっく!」「前橋ウィッチーズ」映画『ヒロイン失格』、『センセイ君主』など。
NHK「恋せぬふたり」で第40回
向田邦子賞を受賞。



日本の未来を作る若者たち

音楽学科 脇岡 洋平

2024年（令和6年）11月に主任に任命され、この記事執筆時点で4ヶ月ほどが経過いたしました。まだ慣れとは程遠く、日々主任業務の大変さを実感しているところです。

私は外部の大学を卒業し、ドイツとハンガリーへの留学、そして帰国してからのピアニストとしての活動を経て、2019年度（令和元年）より本校に非常勤講師として入職いたしました。ちょうど江古田への完全移転が終了した年で、所沢校舎を知らない学生と共に入ったことになりました。そして2021年度（令和3年）より准教授となり、前年度より続くコロナ禍の中、専任教員としての生活がスタートしました。授業はまだオンラインで行われ、懇親会や研修旅行も無く、学生たちはもちろんのこと、なかなか先生方や助手さんたちとお会いする機会も少ないまま始まりましたので、今現在はほぼ従前の体制になりましたが、私より以前に専任の任に就かれた先生方とは少し違ったスタートを切ったように感じております。また、今では開催されていない学科内やコース内のイベントが、コロナ禍前までは開催されていた、というお話を聞くこともあり、体験できなかったことが残念に思われることもありました。

留学から帰国した後、演奏家として活動してまいりましたが、恥ずかしながら、大学における業務は初めてのことばかりで、大変な緊張の連続でした。今でも自分の能力に常に



問いかけつつ職務を遂行する、という精一杯の状態ではありますが、音楽学科の尊敬する先生方や助手さんたちの沢山のご助力をいただけていることに、感謝の念が尽きません。

イソップ物語「アリとキリギリス」では演奏家は享乐的なキリギリスとして描かれておりますが、鬼のように練習すること以外は概ね物語の通りです。音楽を愛し、美食を愛し、という人が多く、練習や音楽に対する姿勢は恐ろしく真剣ですが、それ以外はどこか間が抜けていて、くだけているタイプが多いのが特色でしょうか。決して経済的に豊かな職業ではありませんが、皆音楽の魅力に、そしてそれを演奏して表現する魅力に取り憑かれているから続けられるのだと思います。近年惜しくも亡くなられた日本を代表するピアニスト、故・中村紘子女士は自身の著書『ピアニストという蛮族がいる』の中で、要約すると「ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番のピアノ独奏部には音符が28,736個書かれており、これを覚

えるというだけでも超人的作業であり、こんなことを好き好んでするピアニストはどこかおかしくて、愛すべき種族である」というようなことを書いています。もちろん、音符を覚えるだけでは充分ではなく、超絶技巧を駆使するため指や体を酷使し、さらに音楽ですから、美しさや激しさから喜怒哀楽などの感情まで、様々な表現もしないといけないわけです。なので、1音1音響きを作っていく、完成させるのは気の遠くなる作業です。

無論学生たちは必ずしも演奏家になるわけではありませんし、むしろ全く違う業務内容の職種に従事することも稀ではありません。しかしながら、こうした身体的、頭脳の困難を乗り越え、正解の無い芸術という物を深く探求していく姿勢は、彼らが社会に出てからも現実に立ちはたかる壁を突破する大きな力になることでしょう。彼らには、日藝を卒業したことに誇りを持って社会に羽ばたいてもらいたいと強く思います。

近年コロナ禍を経て長く続く経済的不況によるあおりを子供達が受けてしまい、芸術というものに目を向ける心の余裕が無くなってきているように感じますが、そんな状況の中でも、日藝へ芸術を志し学びに来る学生たちは、とても貴重な人材です。将来の日本を作る彼らが、日藝で学び卒業し、社会に貢献する存在になる様に、音楽学科では思い切り学べる環境、そして質の良い授業を提供できるよう、邁進して参ります。



野田 慶人 元芸術学部長との思い出

日本大学芸術学部校友会 常任幹事 宮澤 誠一

撮影：森下 茂行（映画・48年度卒）

早い、早すぎます、どうしてなんだ一、との思いがまだ拭えません。4期12年の要職を勤め上げ、やっと奥様との2人の生活ができるようになったのに、まことに残念です。

放送学科の野田先生との出会いは、映画学科の私の同級生、中野順氏が、野田先生と同じ鹿児島ラサール卒で、3年先輩だったからなのです。昭和45（1970）年野田先生が放送学科

に入学されて、中野氏と江古田キャンパスで出会って驚いたと言っていました。中野氏から野田先生を紹介され、ある時麻雀のメンバーが足りないからと誘われたのが最初でした。学科は違いましたが、そんな出会いが今まで続いていました。

昭和47年3月の卒業時に、もう一人の麻雀メンバーの放送学科橋本先生と私はステューデントアシスタ

ントとして月給12,000円で大学に残り、2年後に野田先生が卒業され、やはり私たちと同じように大学に残られました。授業補佐や学生の面倒から学科、学部運営のお手伝いをするようになったのです。そのスタンスは野田先生は、学科や学部の中核でお手伝いを、私は学内で外部の作品制作をしていました。

野田先生と最初に遭遇した大きな



出来事は、時間割委員を任された時でした。授業時間配置の獲得競争で、エスカレートする先生方がおり、ついに喧嘩になってしまいました。その時野田先生は、止めに入っていました。私はマッチマッチ、野田先生はマッチポンプでした。このスタンスは、以後も変わってなかったですね。

学部運営では、入学、卒業式の工夫を任されたことです。担当の責任者は演劇学科戸田先生、その下に野田先生と私でした。堅い儀式的入学卒業式を、何とかしようと戸田先生の演出で野田先生が制作、私は裏方の照明、音響でした。私たちは、学科運営の時間を割くわけにはいかないので、準備等は夜間になるので、

ギャラは無くても、弁当を出すようにしてくれたのです。その交渉は全て野田先生で「学部のために働くのだから、飯ぐらい食わせろよ」との勢いで成果でした。

この経験からか、本部の日大フェスティバル、後楽園ドーム、所沢校舎でのイベントもやらされました。予算は出さないが口は出すの日大方式でしたので、段取り、交渉と苦勞

をしながら結果を出していたのが野田先生だったのです。芸術学部、他学部等本部の広報ビデオ、入試ビデオの委託業務の作品制作も、野田先生が絡んで進めてくれました。

所沢校舎建設でも大変でした。教育内容を削減してまでの移転はしたくない教員サイドと管理部門との折衝は難航し美術・音楽・デザインは単独校舎。写真・映画・文芸・演劇・放送は一括校舎で、施設の共用使用をする案を創り、いよいよ局長との掛け合いとなりました。この局長との交渉が成立しないなら、移転には反対するとの合意を5学科で了承、局長が反対した時は机をタタITE、立ち上がろうと申し合わせし、挑みました。このアートセンターの長は八木教授、写真は原直久先生、文芸は尾高先生、演劇は原一平先生放送は野田先生、映画は私で権田局長との交渉となりました。交渉は平行線で、やはり予算内にしろとの局長の姿勢でした。私たちは、目くばせせずに八木先生が机を叩いて立ち上がったのを合図に、反対しますと帰ろうとしました。局長は慌てて止めに入りこれ以上のオーバーが無いなら、認めるという事になりました。やっとセンター案が進み出し、所沢校舎建設は動きだしたのです。学科サイドをまとめてくれたのが、野田先生でした。

野田先生との仕事は、東アジア学生映画祭の江古田校舎での開催

やマッピングの研究・実演、8年計画が6年に短縮された江古田校舎への全学部移転などがあり、忘れられないことが多々あります。プランが野田先生で、実施が私のお役目だったと記憶していますがそれは話合ったわけではなく自然と生まれた分担だった気がします。その間揉め事もありましたが、対立したことはなく終わったのです。今思うと野田先生が上手く処理してくれていたの、助けられたのだと思います。2人とも突っ走るタイプですが、互いにどちらかが走り出したら、片方が止め役をと、自然に収まっていたようです。でも、走り出した回数は、野田先生の方が多かったのではないのでしょうか。

熱血漢野田慶人先生、苦勞を掛けて申し訳なかったです。こんな気持ちで送るとは思ってもよらず、残念でしかたありません。でも、野田先生のやり遂げたことは大きく、次の世代が引き継いでくれていますよ！お疲れ様でした、野田慶人先生。

ご苦勞様でした。残された私たちを見守っていて下さい。





写真学科

■原直久 日本大学名誉教授称号授与記念写真展「20代の仕事」

10月15日～11月9日にかけて、江古田校舎東棟1階・写真ギャラリーで原直久先生（昭和43年度卒）が20代で撮影された「蜃気楼」のゼラチン・シルバー・プリントと「時の遺産」のプラチナ・パラジウム・プリントを展示しました。10月26日にはギャラリー横の会場で「原先生を囲む会」を行いました。全国から写真学科卒業生や先生にご縁のある方129名の方が集い、先生と歓談されました。

■日芸祭における写真学科写真展で、写真学科奨励賞を4年生の鈴木太鳳さんが「PhotoGraphic Cel」、3年生の加戸愛実さんが「日本統治時代の台湾」、3年生の山澤峻亮さんが「綺麗ごとの復讐」で受賞されました。また写真学科卒業生の会・新写真派協会の常任・年度委員から選ばれた新写真派協会賞を2年生の嘉本耀生さんが「SF世界の表現：Fine Art」で受賞されました。

■特別講義開催

11月8日にハービー・山口氏による「生きる希望を撮る人生」、11月15日に大西みつぐ氏による「町写真家として「近所」を撮るということ」、11月22日に宮嶋茂樹氏（昭和58年度卒）による「ジャーナリストの仕事」と題する講義を3週連続で行いました。タイプの違う3人の写真家からそれぞれの写真観を伺うことができました。



ハービー・山口氏



大西みつぐ氏



宮嶋茂樹氏

■日本大学芸術学部写真学科教員作品展SKY VIIを12月13日～12月19日にソニーイメージングギャラリー銀座で開催しました。今回は、GOTO AKI先生、鈴木麻弓先生、田中里実先生の作品展でした。

■令和6年度卒業制作受賞者

〈芸術学部長賞〉黄蔚晴「あの夏」 東倫太郎「蹄跡は風と共に」
芳原優里「アルファルド」 泉水大輝「古兵」 皆川真悠理「つらなり」
〈芸術学部奨励賞〉鈴木太鳳「分裂する心体」
〈金丸重嶺賞〉檜山遼「Hands」 梶山裕生「想いをのせて、栄光を」
村松省音「Abstract/Minimal/Landscape」

■令和6年度卒展受賞者

〈写真学科奨励賞〉兼光萌夏「PINNACLE」 高橋隼人「転生」〈写真学科奨励賞（WEB）〉 井村友紀「The Heart of Motherfood」
〈新写真派協会賞〉許方千「夢幻泡影」

■写真学科の直近情報は下記をご覧ください



映画学科

■令和6年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第52回渡辺俊平記念賞（映像表現・理論／映像専攻）佐々木七波

☆第27回筭見有弘賞（映像表現・理論／理評専攻）岡崎量子

☆第18回大竹徹賞（映像表現・理論／脚本専攻）宮本桃羽

☆第19回八木信忠賞（録音）高橋奈緒子

☆第48回映画学科奨励賞（映像表現・理論）〔理評〕石島怜奈、〔映像〕高木結羽、〔脚本〕石原大暉、（監督）片峯綾乃、（撮影）井上 心、（録音）山田琴巴、（演技）黒井花音

☆第34回映画学科選奨（映像表現・理論）〔理評〕喜井大二朗、〔映像〕高橋 光、〔脚本〕嶋田遊加、（監督）瀧川夏音、（撮影）菅野みなみ、（録音）梅田竣平、（演技）小渡梨乃愛

☆第32回映画学科特別賞（伊藤忠ケーブルシステム株式会社提供）（映像表現・理論）〔理批〕川井紗香、〔映像〕前田健晴、〔脚本〕森島 慧、（監督）大平和実、（撮影）長谷川拓海、（録音）田中青空、（演技）佐藤未羽

☆第22回アートライティング賞（東芝ライテック株式会社提供）（撮影）柏子見素風〔照明にたいして〕

☆第24回映画学科コダック賞（コダックジャパン提供）（監督）谷本 洸、谷口賢城、（撮影）薩田知弥、稲川 陸、（録音）高 未佳、大西里奈、（演技）安齋未唯奈、松尾和音

☆第10回三善賞〔（株）三善提供〕（演技）根本果澄

☆第20回江戸クリエート賞〔（株）江戸クリエート提供〕（監督）大森千史、森 春陽

■令和6年度をもちまして、次の先生が映画学科を退職されます。映画学科発展にご尽力いただきありがとうございました。（敬称略）

飯山弘章、鈴木元、手塚昌明、花柳春々彦、野地朱真

■令和7年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。（敬称略）

直井卓俊（映画ビジネス、再委嘱）、樋口尚文（映像特別講義Ⅱ、再委嘱）、土田環（映像特別講義Ⅰ）、花柳貴柏（日舞Ⅰ他、再委嘱）、高橋米樹（映像研究他、再委嘱）、高橋尚登（CGI演習）、田中 精（映画演技実習Ⅲ他）



美術学科

■ 絵画専攻

- ・ Gallery 美の舎が主催する「美の舎学生選抜展2024」にて、造形芸術専攻1年生のアオダンニさんと、絵画専攻3年生のSHIGERUさんが奨励賞を受賞しました。
- ・ 美術雑誌『月刊美術』（1975年創刊）が主催する絵画コンクール「美術新人賞 デビュー2025」にて、絵画専攻4年生の張替百合さんと、絵画専攻3年生のSHIGERUさんが入選されました。
- ・ 「Idemitsu Art Award 2024」にて、2013年に修了した石田浩美さんが大輔 周 審査員賞、大学院2年生の蔡東辰さんが入選されました。

■ 版画専攻

- ・ 第49回 全国大学版画展で修士1年の小林幹太さんが優秀賞を受賞しました。
- ・ プリンティング・アートの力大いなる「日芸版画山脈」展が開催されました。日芸版画教育に携わった教員の作品や卒業生などの作品を展示しました。会期中はシンポジウムも開催され教員や在学生、卒業生の交流の場となりました。



■ 地域芸術専攻



新潟県・越後妻有地域で、世界最大級の国際芸術祭「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2024」

が開催されました。（会期：7月13日（土）～11月10日（日））第9回を迎える今回は、41の国と地域から275組の作家による311点の作品が集まり、日本大学芸術学部美術学科の鞍掛純一教授および美術学科彫刻コース有志 地域芸術専攻の学生との共同による「木湯」が展示されています。



音楽学科

■ 令和6年度 卒業論文要旨発表会 オンデマンドにて卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表会が開催されました。
〈音楽教育コース〉小野崎愛奈 〈情報音楽コース〉江波愛純、WONG LULIA、小鷹狩綾乃、中島くるみ、渡邊伽乃

■ 令和6年度 大学院修了演奏会 2025年3月5日（水）練馬文化センター小ホールに於いて、修了演奏が優秀であった修了生による修了演奏会が開催されました。

〈声楽分野〉上野富紀翁（バリトン） 〈器楽分野〉大野寿乙（ピアノ）、鈴木由佳子（ピアノ）

※下記の修了生は本演奏会に選出されましたが、都合により演奏いたしませんでした。

〈器楽分野〉小杉 枝里（フルート）

■ 令和6年度 卒業演奏会 2025年3月10日（月）練馬文化センター小ホールに於いて、卒業演奏及び卒業作品が優秀であった学生による卒業演奏会が開催されました。

〈作曲コース〉渡邊響子 〈声楽コース〉渡辺留佳（メゾソプラノ）
〈ピアノコース〉大越耀子、田中愛子、原田笑花 〈弦管打楽コース〉木村友香（フルート）、岡田瑞稀（フルート）、塩原由奈（トランペット）、園田明香（オーボエ）

※下記の卒業生は本演奏会に選出されましたが、都合により演奏いたしませんでした。

〈作曲コース〉岩田宙士 〈声楽コース〉熊田このは（ソプラノ）
〈ピアノコース〉伊達優香（ピアノ）

■ 令和7年度上半期に開催する音楽学科演奏会は下記のものになります。いずれも入場料無料ですので気軽に越してください。

● 第144回定期演奏会（ソロ定期） 令和7年8月2日（土）

開場／開演時間未定 於：江古田校舎東棟6階音楽小ホール

● 第145回定期演奏会（ソロ・コンチェルト定期） 令和7年9月30日（火）開場／開演時間未定 於：練馬文化センター大ホール

● 第54回ピアノコンサート 令和7年11月12日（水）開場／開演時間未定 於：練馬文化センター小ホール

● 第37回室内楽・吹奏楽定期演奏会 令和7年11月25日（火）開場／開演時間未定 於：練馬文化センター大ホール

● 第56回オペラ公演 令和7年12月3日（水）開場／開演時間未定 於：練馬文化センター小ホール

● 第146回定期演奏会（合唱・オーケストラ定期） 令和7年12月23日（火）開場／開演時間未定 於：練馬文化センター大ホール

● 第46回新作室内楽の会 令和8年2月28日（土）開場／開演時間未定 於：江古田校舎東棟6階音楽小ホール

● 卒業・修了演奏会（学部・大学院合同） 令和8年3月4日（水）開場／開演時間未定 於：練馬文化センター小ホール

■ 令和6年度で退職なさった非常勤の先生は次の通りです。ありがとうございました。

笠羽映子、加藤徹也、後藤葵、齋藤優輝、田中花乃、平野昭、柳橋祐子、渡辺圭一（敬称略）

■ 今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。

井垣秋桜子、上田泰史、小林厚子、林尚、村津瑠紀、横山歩（敬称略）



文芸学科

■角朋美さんの詩集が第75回H氏賞候補作にノミネート

角朋美さん（文芸学科卒業生）の詩集『透明な遠くへ』が、日本現代詩人会主催の第75回H氏賞候補作にノミネートされました。日本現代詩人会会員の投票により、『透明な遠くへ』を含む9編の詩集が候補作となり、3月1日に開催された二次選考会に進みました。惜しくもH氏賞受賞は逃しましたが、詩壇の芥川賞とも呼ばれるH氏賞にノミネートされた角さんの今後の期待されます。

■「第三十五回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」にて、文芸学科生の作品が入賞

錦織令佳さん（文芸学科4年生）が「矢印を見ながら歩く冬の駅」で、佳作特別賞を受賞いたしました。

丸山修平さん（文芸学専攻修了生）が「滑走路離れて惜む秋夕焼」で都道府県賞を受賞いたしました。

■渡辺あみさんが「第61回現代俳句全国大会 青年の部」で准賞を受賞

渡辺あみさん（渡邊あみさん・文芸学科4年生）が「第61回現代俳句全国大会 青年の部」で准賞を受賞しました。全作品応募数は、12,453句に達しました。

「音がない世界に降りしきる愛日」渡辺あみ

■文芸学科4年生の由良伊織さんの作品が、『現代短歌』2024年5月号（現代短歌社）の特集に掲載

文芸学科4年生の由良伊織さん（PN）の作品が、『現代短歌』2024年5月号（現代短歌社）の「特集 Anthology of 40 Tanka Poets selected & mixed by Haruka INUI」に掲載されました。

■「第23回江古田文学賞」発表

「第23回江古田文学賞」は、令和6年10月31日に応募を締め切り、123篇の作品が集まりました。予備選考のあと3篇が最終候補として選出され、同年12月19日に最終選考会を行いました。正賞、佳作共に残念ながら該当作なしとなりました。

■令和7年度の新任講師紹介

入倉直幹先生（文芸研究Ⅱ、DTP演習Ⅰ・Ⅱ）

大住有先生（ノンフィクション論Ⅰ・Ⅱ オムニバス担当）

吉田恵里香先生（文芸創作論Ⅰ・Ⅱ オムニバス担当）



演劇学科

■令和7年度の演劇学科

演劇学科は以下専任教員、助手と舞台芸術の研究、教育に学生と力を合わせて頑張っております。校友の皆様の変わらぬご支援を引き続きよろしくお願い致します。

奥山緑（教授・学科主任）主な担当授業「演劇概論Ⅰ/劇場論Ⅱ」

小林直弥（教授）主な担当授業「演劇史Ⅰ/舞踊学」

中野成樹（教授）主な担当授業「演出演習/演出論」

松永雅彦（教授）主な担当授業「西洋舞踊実習/総合実習」

山口英峰（教授）主な担当授業「舞台技術研究/総合実習」

松山立（准教授）主な担当授業「演劇史Ⅱ/演技実習」

青木拓也（専任講師）主な担当授業「舞台美術実習/総合実習」

南香織（専任講師）主な担当授業「照明演習/照明実習」

今井春日（助教）主な担当授業「音響実習/総合実習」

大池容子（助教）主な担当授業「劇作実習/総合実習」

伊東あおい（助手）島野日菜子（助手）田中幸乃（助手）

那須舞鈴（助手）弓削風佳（助手）渡邊康太（助手）

■退任のお知らせ

演劇学科で永く教鞭を取られた范旅先生が3月31日をもって御退任されました。在職中は西洋舞踊の専門教育に加え、海外学術交流に尽力され、芸術学部と中国伝媒大学の提携を築くなど大きな功績を残されました。本当にお疲れ様でした。

■客員教授着任のお知らせ

日本の舞台芸術界を牽引するお二人を客員教授として、お迎えます。



歌舞伎俳優 中村 獅童（再任） 狂言師 野村 萬斎（新任）

お二人には特別講義等を通して演劇学科生と向き合っていく予定です。



演劇学科HP



演劇学科 Instagram



演劇学科 X (旧 Twitter)

※フォローよろしく願います。



放 送 学 科

■ 今年も箱根駅伝関連番組で学生制作のラジオCMを放送！

日本大学が東京箱根間往復大学駅伝競争（通称：箱根駅伝）に出場しました。文化放送系列で、昨年12月20日から放送の「箱根駅伝への道」（4回）と、1月2日、3日の「箱根駅伝実況中継」の中で、日本大学のラジオCMが3本放送され、そのCMを昨年に引き続き放送学科の学生が制作しました。

星野裕教授の指導の元、企画と原稿作成は放送学科の学生、出演者も放送学科の学生を中心とした芸術学部生で、録音も放送学科録音スタジオで行われました。

放送されたのは「七転び八起き」篇20秒（コピー・演出：池田知優）、「まぎれてる」篇20秒（コピー・演出：谷口豪）、「船乗り」篇20秒（コピー・演出：鍋木佐織）の3作品です。

■ 令和6年度卒業研究受賞者

〈芸術学部長賞〉

- ・朗読「そいばってん」寶藏寺花映
- ・論文「アイラップ公式アカウントからみる「中の人」だからこそ生み出せる親近感」宮脇桃子
- ・映像作品「証～日本大学ポート部 情熱はここにある～」柴山紗（共同制作者の田中美好に放送学科特別賞）
- ・映像作品「テレテレ坊主-令和のテレビっ子量産計画-」中村心
- ・映像作品「ホワイテ」金世実（共同制作者の後藤佑希、石井幹人、岡本響、石原美夕希に放送学科特別賞）

〈芸術学部奨励賞〉

- ・脚本「鏡が丘の人々」今邑太郎

〈呉正恭賞〉

- ・音響作品「くじら雲」松尾海遊

〈放送学科特別賞〉

- ・論文「「懂れ」を抱くことと自分らしさの確立」森田夏愛
- ・論文「若年層におけるプロダクトプレイスメントの再評価についての一考察」大澤梨華

■ 定年退職者のお知らせ

長年に渡って「放送概論」「取材調査演習」など放送に関する文化や社会的側面から講義、演習科目を担当された兼高聖雄先生が2025年3月で定年を迎えられました。

芸術教養科目として担当された「社会現象の解説」はメディアにも度々紹介される特色のある講義科目でした。受講された卒業生の方も多いのではないのでしょうか。

2025年4月からは特任教授として「放送概論」「メディア研究」「ゼミナール」などを担当されます。これからどうぞよろしくお願いたします。



デ ザ イン 学 科

■ 深谷先生追悼展示および偲ぶ会を開催します

2024年10月1日に急逝されました故深谷基弘先生の業績展示を2025年10月14日（火）から開催します。併せて深谷先生を偲ぶ会としてギャラリートーク等も計画しています。詳細につきましては今後、デザイン学科ホームページ等でお知らせいたします。

<https://design.art.nihon-u.ac.jp>

■ 日本タイポグラフィ年鑑2025にて笠井則幸（教授）と大学院生が受賞

笠井則幸教授が研究実験部門で審査員賞を受賞。また本学大学院修士課程を修了したジョー ギョクシンさんが制作した修了制作『随意書』が同学生賞グランプリを受賞しました。

■ 国際感性工学会 KEER2024にて大学院生が最優秀賞

2024年11月20～23日に台湾の国立台中科技大学において開催された「国際感性工学会 KEER2024」にて、本学大学院1年生のオウ ケンさんが発表した研究論文がポスターセッションで Best Paper（最優秀賞）に選ばれました。

■ グッドデザイン賞 New Hopeにて卒業生が入賞

本学大学院修士課程を修了したツァン ジャックさんの修了制作が、学生の作品を主に対象としたグッドデザイン賞の「New Hope」に入賞しました。応募カテゴリーは「情報のデザイン」で、作品名は『甘味の投影—隠された甘味料の世界』です。

■ 中村至男（客員教授）がJAGDA賞2025を受賞しました

芸術研究機関 Hyundai Artlab のwebムービーとして制作した作品「Dance of the Earth」がJAGDA（日本グラフィックデザイン協会）のJAGDA賞2025を受賞しました。JAGDA賞は各年を代表する優れたグラフィックデザインを表彰・記録していくことを目的とし、2008年よりカテゴリーごとに数作品を選出しています。

■ 卒業制作展のオープニングパーティにOB・OGをご招待

2025年度の卒業制作展（3月1日から9日まで江古田校舎にて）のオープニングパーティが今年も多数のOB・OGをお招きして盛大に開催されました。





〔写真学科〕
こう うまいちん
黄 蔚晴

「なんでこの写真を撮ったの？」入学したての頃、課題を提出するたびに必ず聞かれる質問。当時の私は写真に理由を求めるなんてと思い、この質問の真意が分かりませんでした。人生は偶然の重なりで、私は写真のために来日したわけではなく、ただ単純に高校の写真部に入部し、たまたま写真の道を歩み始めました。そんな私が四年間をかけてシャッターを押し続け、この素晴らしい世界を少しでも多く残した、それだけで意味を成します。日芸がそれを教えてくれました。今でもあの質問が頭に響きます。写真を撮る理由。この速い時の流れに身を任せて生きる私たちが存在した証拠を、写真で残す理由、それは人生そのものに他ならないと思ってきました。偶然の出会い、必然的な別れがあった、長いようで短いような大学生活でした。良き師に出会え、作品作りに励み、かけがえのない勉学の日々。限りある人生のなかで日芸での学びを糧に、日々精進し、私は撮り続けます。

“日芸”と聞くと何を思い出しますか？僕は共に歩んだ“変人達”を思い出します。映画学科といえど色々な人がいます。ドラマ、邦画が好きな人、洋画が好きな人、MVが好きな人、CGやアニメーションを好む人など。しかし、自分を表現する物を作りたいという思いは皆共通しています。入学時、どんな人がいるのかワクワクしていましたが、私の想像を超えてきました。この学校には“いい意味”で変人が多く、刺激的な毎日でした。制作に対する価値観や想いが異なり日々新たな発見でした。そんな刺激的な毎日を送るにつれ、単に洋画が好きで入った一年生から、現実を映す報道やドキュメンタリーに興味を持ち、国内外問わず出向き、卒業制作では、気づけばカナダとニュージーランドでオーロラを撮っていました。名残惜しいことに卒業しますが、日芸という夢と希望に満ち溢れた素晴らしい校舎や、慣れ親しんだ変人達を忘れることなく、今後も精進して参ります。



〔映画学科〕
前田 健晴

皆さん

本年より皆様の仲間入り



〔美術学科〕
菅沼 緋南

私の過ごした4年間は、出会いと学びに溢れた素敵な時間となりました。大学2年生では、娘との出会い。慣れない子育てで頭がいっぱいになりながらも、がむしゃらに学業との両立を模索し駆け抜けた日々でした。「休学せずに、仲間と共に卒業したい」「教員免許を取得したい」という私の我儘を、たくさんの方々のサポートによって実現することができました。生後3ヶ月の子どもと一緒に学べる、あたたかい環境を提供してくれた先生方、お迎えの時間に間に合うようにいつも気に掛けてくれた仲間たち、娘の成長を喜んでくれる警備員の方々、改めて周りの環境に恵まれていたと感じます。日芸だから成せたことだと思っています。また、子育てを通じて制作にも変化がありました。時間の使い方が上手くなり、集中力が鍛えられ、限られた時間で制作に没頭できるようになりました。子育てを通じて得た喜びや葛藤が作品に新たな視点を与えてくれました。全ての出会いに感謝し、何事も自分の成長する糧としていくことを胸に刻み、この春、私は教師になります。

とても充実した4年間でした。自分とは違う分野に精通している友人との関わりは、私にとってもとても良い学びになりました。

自分の好きなことに熱中する友人の姿に背中を押され、新しい挑戦を多く積むことができました。またその中で、友人から自分とは違う視点を得たり、新しいアイデアが生まれたり、とても良い刺激をたくさん受けることができました。私の作品制作を後押しし、共に制作してくれた友人や先生方にとっても感謝しています。

友人の作品への参加やチームでの制作を通して、人と作品を作り上げることの難しさを経験し、その中で自分の未熟さも痛感しました。この経験は自分を成長させてくれたと実感しています。4月からは、レコード会社に就職し、新しい生活が始まります。自分が働いている姿はまだ想像できませんが、人との繋がりを大に日々努力したいと思います。



〔音楽学科〕
江波 愛純



[文芸学科]

新谷 栄菜

「ブルース・ブラザーズ、最高っすね」と言って合格をもらったあの日から早4年。ついに卒業らしい。さようなら学割、こんにちは正規料金。いやだ、映画を安く観たいし、カラオケも1000円で6時間歌い放題のままでいたい。俺を江古田から引き剥がさないでくれ！ と叫びたいが時とは無情なもので3年住んだ江古田を離れることになった。

ともかく、私の進路はいわゆる自宅警備員、無職である。日芸に通い、それ以外にも同時に2つ学校に通った挙句、ニートになった。とりあえず両親には土下座しようと思う。ただ、どんな生き方でも引け目を感じないのが日芸のすごいところではないか。この4年間、刺激的な先輩・後輩・友人・師と出会い、人生の選択肢は就職だけではないことを学んだ。「大学は人生の夏休み」なんて言われているが思い返せば全然休んでいなかった。どちらかと言えば、毎日全力疾走だった。これからも少しだけ長い夏休みを有意義に楽しんでいきたい。

中学校の文化祭で学年劇を上演した際に、みんなで1から作り上げることや終演後の拍手に感動を覚え、日芸演劇学科に入学し舞台監督を専攻しました。舞台監督について学ぶ中で「舞台監督は誰からも褒められない仕事」と先生に言われたのをよく覚えています。一般的によく知られていない舞台監督ですが、これまで実習公演で舞台監督を務めてきた中で沢山の仲間達から多くの感謝の言葉を貰いました。観客から直接評価されることはなくとも、一緒に舞台をつくる仲間達からそんな温かい声をかけてもらうことの出来る舞台監督は、私にとって、とてもやりがいのある仕事です。そして、演劇が大好きで上京した私にとって、私には計り知れない想像力、発想力を持った演劇が大好きな仲間達に出会えたこと、一緒に作品を作ることが出来たことはかけがえのない経験です。またいつか現場で再会して思い出話ができるように、これからも前向きにひたむきに駆け抜けます！



[演劇学科]

島野 日菜子

今日は！

をします。どうぞよろしく。



[放送学科]

住谷 陸

「アナウンサーになりたいです！」と放送学科の入学試験で話してから4年。あっという間の大学生活でした。これまでを振り返ると、大学の卒業式・入学式の司会を担当したり、テレビ報道を研究するサークルを立ち上げたり、民放テレビ局生放送のカメラを担当したりと、自分のやりたいことに真剣にチャレンジできる、とても恵まれた環境にいたのだと感じています。日芸に入学して良かったこと、それは放送を心から愛する沢山の親友と出会えたことです。こんなに話が合う人がいるのか！？と思うほど気が合う仲間達と、一日中テレビを見て、報道について語りあった時間はかけがえのないものでした。4月からは、青森県で放送局のアナウンサーとしてのキャリアをスタートさせます。日芸での学びを自信に変えて、正確でわかりやすい情報を届けることができるよう、一つひとつの仕事に真摯に向き合っていきます。青森江古田会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします！

大学で最も変わったのは、「デザイン」という言葉への向き合い方でした。一般的にデザインは、おしゃれで価値のあるものを指す言葉ですが、学ぶうちに、機能を生み出す作業へと変わり、やがては信念を形にするプロセスそのものを意味するようになりました。これは、使う側から作る側へと立場が変わる中で生じる変化だと思います。では、良いデザインとは何でしょうか？入学当初は、奇抜な形を生み出すことが優れたデザインだと考えていました。しかし、それは自己満足に過ぎませんでした。本当に良いデザインには、より良い未来への願いが欠かせません。そのためには、まず自分自身が健康であることが大切です。つまり、良いデザインのためには、まず真人間であることが求められるのです。ぶっ飛び人間が多い芸術学部で、真人間として卒業すること。それがデザイン学科の最大の課題だったのかもしれません。これからも地道に、愚直に頑張っていこうと思います。



[デザイン学科]

藤春 織音

「今、ここで。」 干場 文夫

日本大学芸術学部音楽学科 1976.3 卒業
渡辺 薫先生門下



生涯、音楽教師として

この度は伝統ある日芸校友会報に掲載させて頂き、心より御礼申し上げます。

この機会に自らの来し方を振り返り、厚顔無恥を承知で皆様にご紹介したいと思います。

音楽学科卒業後は音楽教師として稲置学園金沢星稜高校・星稜中学校で勤務を始めることができました。星稜高校の土谷教頭（法学部卒）は、右も左もわからない私を丁寧にお導き下さり、日本大学の「絆」を強く感じた日々でした。

結婚し、長男を授かりましたのを機に、故郷である能登の地へ戻る決意を固めて学園を辞し、異動のできる公立学校教師となりました。（長男も日芸音楽学科を卒業、実弟も写真学科です。）

1980年4月、希望が叶い地元の能登の小学校で4年生学級担任となりました。初めての学級担任。多様な感性を持った子どもたちと関わり、授業だけでなく休み時間の接し方、地域や家庭（保護者）との関係の重要性を学び、教師としての責任の重さを改めて痛感しました。1982年4月からは同じ町内の中学校へ異動。1年学級担任と音楽専科を受け持ちました。

当時は生徒たちの行動も荒れており、音楽や美術など5教科以外は大変な時期でした。私は生徒指導の任に就き、そこへ新校長が赴任。これが転機でありました。ある日、私を校長室に呼び、「音楽で学校を立て直す事はできないだろうか？」と問われ、全クラスによる合唱の取り組みを提案しました。「音楽の授業や学級単位での練習を通して生徒間の心が通い合い、ハーモニーの美しさを皆で味わうことで他者の存在を認め、共感的な人間関係を構築することは、自己存在感の醸成につながるはずだ」と私は大きな声で、まくしたてるように答えました。校長はじっと聞いてくれ、「よ

し、すぐに始めないか」即断、即決でした。課題もありました。学校全体で取り組むため部活動時間が短くなることへの不満、職員各々が抱くクラス合唱に対しての気持ちにも温度差がありました。

それから校長と二人で現状の「荒れ」の原因を洗い出し、解決のための方向性を職員全体の共通意識となるよう会議を重ねました。次第に賛成してくれる職員が増え、全校合唱で大きな成果を挙げている岐阜県興文中学校にも赴きました。そこで体験したのはカルチャーショック。帰路のマイクロバスでの職員の顔つきはガラッと変わっており、合唱をどう導入するかの談義が始まっていました。終礼を15分延長して練習時間を設けることになり、数ヶ月後にはすべての教室から歌声が響くようになりました。その年から文化祭のメインとなった合唱コンクールで、体を震わせ、大きく口を開け、指揮者に集中する子どもたち。保護者は目を潤ませ、大きな拍手でねぎらってくれました。数年後には、道德の研究発表会ができるまでに学校は変わりました。

次に、私自身がカルチャーショックを受けた経験を申し上げます。

平成7年、「文部省派遣海外教育事情視察団」の一員として、北半球を西回りで5ヶ国の学校や教育文化施設



を視察する幸運に恵まれました。イタリアでは中学校の授業（アドリア海西部のキエーティ県）を参観しました。理科の授業は上皿天秤を使った実験で、日本と比較すると質素な器具でしたが、真剣に実験する姿が見られました。さすがイタリアと感じたのは、狭いながらもコンサートホールが設置されており、休み時間には生徒がヴァイオリンやクラシックギターで楽しくアンサンブルする姿が見られ、これには完全に参りました。また、すべて日本製のリコーダーで音楽の授業が進められていました。日本ではリコーダーの持ち方や指の押さえ方、吹く時の姿勢などを示した通りに細かく指導していますが、参観したのは個人個人で足を組んだり、隣同士で話したり相当リラックスしての授業であり、日本では「そんな姿勢で吹いても綺麗な音にはならない」と注意されるはずです。披露されるアンサンブルには期待していませんでした。ところがその音色！同じ日本製リコーダーとは思えない美しい音色と、メロディーやフレーズ表現の仕方。まさにコンサートでした。幼少期から様々なジャンルの音楽に触れて育つからでしょう。歴史と文化と風土の差でした。イタリアの人々は大らかに話し、声もよく響きます。話しながらカンツォーネを歌っているようでした。

次はメキシコ。当初、文化や教育は日本と比べ30～40年程遅れていると聞いていました。

しかし訪問したプエブラ・デ・サラゴサの子どもたちは活気に溢れた学習活動を見せてくれました。小学校では、低所得家庭の子は午前中に家の手伝いや交差点で停止車の窓拭き、生花の販売などをして午後から登校し、午前中は高所得家庭の子が学習するそうです。午前も午後も、子どもたちの眼は日本の子ども以上に輝いて見えました。

次は西海岸のロサンゼルス近郊、ブエナパーク市教委や学校を視察しました。学校の敷地は広大で、「ピストル持込禁止」「薬物持込禁止」など日本では絶対に目にしない校内掲示物に心底驚き、アメリカのもつ現実に直面しました。この学校にも中規模なコンサートホールが併設され、沢山の生徒が音楽を楽しんでおり、この国の自由さを肌で感じました。総括的に言えることは、どの国も次世代を担う子どもたちへの教育には本腰を入れているということでした。日本以上かもしれません。

最後に、石川江古田会（日芸校友会）についてです。

十数年前、私が勤務していた中学校へ近所に住む方が訪ねてきました。文化と芸術を誇る石川の地に校友会をと熱意を持って語られたのをきっかけに、本部校友会と連携し、2015年、国内第17番目の芸術学部校友会「石



川江古田会」を創立しました。いみじくも、北陸新幹線開業と同じ年の発足です。節目を迎えるにあたり、石川江古田会創立10周年記念アートフェスティバル「日芸コンサート石川」を2024年10月に開催することとなり、初めてで不慣れなことも多く、毎年コンサートの開催実績のある宮城江古田会から貴重なノウハウのご助言を頂きながら進めました。ご出演頂くアーティストの選定や交渉、日程調整、会場の確保、資金調達などに右往左往の日々を過ごし、事務局の方で何とか先が見えた時は本当に胸を撫で下ろしました。その矢先、能登半島地震が起き、被災された方に配慮して中止すべきとのご意見も賜りましたが、能登の復旧・復興を音楽で後押しする決意をし、開催しました。チケットやポスター、プログラムなどは文芸学科卒と写真学科卒の若手会員が制作し、司会は放送学科卒のNHK重鎮アナウンサー、会場フロアには美術学科卒の日展会員の絵画と写真学科卒の素敵なJazz Playerの写真を展示し、日芸の素晴らしい本領が発揮されました。入試相談コーナーも設置して来場者にアピールしました。

メインのコンサートは1部「クラシック」（ピアノ中心としたヴァイオリン、フルート、声楽）ステージ、2部はイタリアの「カンツォーネ」でステージ構成で盛り上げることができました。能登地域のお客様も多数来場して頂き、一部のクラシックは「気持ちが癒やされたね」、二部のカンツォーネは「すごく楽しかった」との言葉を多く頂きました。

コンサートはYouTubeで公開中です。「石川江古田会」と検索して頂くと4Kの高画質・高音質でご視聴頂けます。

以上、思うままに述べましたが、どうぞ会員各位にはお許し頂きたいと思います。

＊同様の文は全国校師会会報にも記載されています。

■世界最大の油彩画が、北海道の山奥の小さな美術館にあることをご存じでしょうか。数年前なら、札幌市内でインタビューしたとしても、おそらくその美術館の名すら知らない、そこに飾られている巨大な油彩画のことも聞いたことがないという人がほとんどで、まして現地に行ってみることがあるという人は、地元民ですら全くといっていいほどいなかったと思います。しかしその絵は15年前から確かに北海道に来ていました…

昨年11月、その絵画の大きさがギネスの認定を受け、その美術館『太陽の森 ディマシオ美術館』がじわじわと注目を集めています。

■札幌から車で日高えりも方面に向かい高速道路をまっしぐらに走っておよそ2時間、日本一の生産を誇るサラブレッドの牧場が左右に広がります。高速道路の最終地点日高厚賀インターで降り、今度は白銀を戴く日高山脈に向かって走ること25キロ。新冠町太陽の森の中に、白い壁・赤いとんがり屋根の美しい美術館が現れます。

■なんととってもそこに飾られているフランス幻想画家の鬼才ジェラルド・ディマシオによる縦9メートル×横27メートルもの絵画の大きさ、その内容に圧倒されます。ディマシオが二万年後の未来をテーマに描いたというこの絵画は、昨年11月14日、「単一画家による世界最大の油彩画」としてギネス世界記録に公式認定されました。『ディマシオ美術館』は廃校になった小学校を再生した美術館なのですが、もと体育館の大きさいっばいに収まったこの絵画、既存の施設では到底収まり切れなかっただろうと納得しました。あまりにも大きすぎて、全体を鑑賞するのはとても大変なのですが、光と音による演出プログラムがそれを助けてくれます。見応えがありおすすめです。

■『ディマシオ美術館』はこの15年間にガラス美術館やグランピング宿泊施設を併設し、絶えまなく進化を続けていました。興味をひかれた方は、ぜひお出かけください。(美術館の主となっている猫ちゃんにも会えます。)

■北海道は四季折々のイベントも沢山開催されて賑わいを見せていますので、是非、魅力的な北海道を訪れ、おいしい食べ物と素敵な体験をしてみたいいかがでしょうか。

北海道江古田会会長 氏家 曹一 (放送・52年度卒)

各江古田支部の連絡先につきましては、校友会事務局までお願いします。(TEL.03-3554-5363)

青森江古田会 高木保会長を偲んで

2024年12月30日 高木保会長が旅立たれました。

2013年夏、青森江古田会発足5周年記念の年で、高木会長が私の所属しているあじさい会（日本大学藝術学部写真学科女子卒業生有志の会）に声を掛けてくださり、青森五拾壱番館ギャラリー「スペース江古田」で写真展を開催させていただきました。

搬入にあじさい会からは誰も行けず、高木会長と写真学科の和田光弘先生（私の大学2年生の時の担任）が展示してくださり大変お世話になりました。

搬出には行くことができ、皆で作品の梱包作業をしました。高木会長の額の梱包作業は真似ができないくらいにとっても手際が良く、丁寧に紐はゆるまずきっちりとしていました。作業をしている皆は梱包のOKをもらいに自然と高木会長の元へ行くようになりました。

短い時間のふれあいでしたが、高木会長は実直で心優しい性格でした。

2013年以後毎年、青森江古田会の会報誌を送って頂き、お蔭様で青森江古田会の活動が分かり、とても嬉しかったです。

長い間青森江古田会会長を務められ、ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

(会報誌委員・T)



2015年1月10日
新年会で撮影

秋田の紹介を、事務局の独断と偏見で行いたいと思います。秋田といえば日本一が多くあります、脳卒中罹患率、ガン死亡率、自殺率など大変不名誉な記録という印象の他、小中学生の学力トップクラス、持ち家率一位等。

秋田の自慢

秋田の良いところと聞かれば、一口で言って風光明媚な観光地が有り、秘湯と言われる温泉が多く、日本酒が美味しい。まさに飲み助には最高のところだと思います。

観光地といえば湖沼美の十和田湖や日本一深い田沢湖。

温泉といえばお医者様から余命数ヶ月と言われた人が玉川温泉のオンドル（地熱を利用した温泉で地面に敷物を敷いて横になる）で、その後何年も生きてガン細胞がいつの間にか無くなっている。という実話がある温泉。

その他にも乳頭（にゅうとう）温泉と言って、一つの温泉施設に乳白色やエメラルドグリーン等の二つ以上の源泉がある温泉など。

そのほかには 2018 年にユネスコ無形文化遺産「来訪神（らいほうしん）仮面・仮想の神々」への登録が決まった「なまはげ」があります。これは私の住んでいる男鹿半島に伝わる行事で、毎年大晦日の夜になまはげが家々に入りその年の禍を祓い、良い年を迎えるように四股を踏んで回るという行事です。

又、秋田の名物料理といえば「きりたんぼ」。以前、秋田江古田会を会員のお店である割烹「濱乃家」で開催したとき、木村学部長、田上校友会長が舌つづみを打っておられました

風光明媚で温泉に入り名物料理を食べて美味しいお酒を飲む。まさに最高の時を過ごせる地です。

どうぞ一度足をお運びください。

秋田江古田会 事務局長 仙北屋 昭弘（音楽54年度卒）



男鹿のなまはげ



きりたんぼの材料

新会員発掘取組み始末記

今回は各支部の参考になればと思います。我が支部の悩みは、総会への参加者が少ないことです。そこで、何とか参加者を増やすべく新たな取組みをしてみました。

現在把握している県内在住の同窓生は約60名。全員に往復ハガキで総会の知らせを出す、返信は半分もない。さらに私が持っている名簿は、全員40歳以上と思われる。そこで「若い」会員の発掘とそこからの参加者増を狙った。

まず、同窓会事務局に20代30代の県内出身者に総会案内を送りたい旨を相談。その結果、27名いることが判明。次に、その27名のうちメールアドレスが分かる方には、「個人情報」を岩手江古田会に提供してよいかの「同意」を得る為のメール文案を作り「事務局に」送信、それを「事務局から」発信してもらった。また、アドレスが分からない方には、同様の「往復ハガキ」を作り、「事務局に」ハガキ自体を郵送した。「事務局に」宛先住所を書いてもらい、発送してもらった。同窓生との「直接」やりとりができないので、なんと面倒な方法であり手間が掛かった。

その結果、メールを送った方からは返信ゼロ（！）。往復はがきは5名から返信があり、その内3名が情報開示OKという結果だった。だが、そのうち1名は既に私が把握している人だった。つまり、新たに発掘できた会員候補は2名。早速往復ハガキを出した。1名は欠席の返信が来た。1名は返信無し。これだけ手間をかけた（事務局の皆様、お世話になりました）が、新たな会員発掘はできなかった。徒労感が残った。

かくなるうへは、大学の入学式直後構内に岩手江古田会の旗を立て、「県人必ず集合」とアナウンスし、超青田買いをしてやろうかと次の策を練っております。

最後になりますが、本年度の岩手江古田会総会は川上学部長・桑折宮城江古田会長のご臨席をいただき、10月5日（土）盛岡市で開催しました。

岩手江古田会会長 鈴木 勝博（文芸・58年度卒）



県庁所在地である山形市は一世帯当たりのラーメン外食消費額が日本一。2021年こそ新潟市に1位を譲りましたが、2022年に1位を奪還し、2023年、2024年と3年連続での1位を獲得、24年は過去最高の2万2,389円で2位の新潟市に大差をつけて全国トップとなりました。山形市は「ラーメンの聖地宣言」を行った2月8日を「山形市ラーメンの日」に制定したことから、並々ならぬラーメン愛を感じます。

ラーメン・そばへの熱意は山形市のみならず、山形県が「ラーメン県そば王国」を商標登録し、麺文化をアピールしているように、県全体で取り組んでいます。山形県のラーメンの良さは「山形ラーメン」という単一の味があるわけではなく、県内4つの地域（庄内・最上・村山・置賜）それぞれに特徴的なご当地ラーメンがあること。どのお店もレベルは高く、庄内の「酒田ラーメン」は2023年の日本ご当地ラーメン総選挙で日本一に選ばれています。地元では毎日昼食はラーメンという方も珍しくないですね。

もう一方の「そば」ですが、県内いたるところにそば街道があり、こちらも県民食と言っても過言ではありません。更科系から極太の十割そばまでお店によって特徴豊かですが、まず味わっていただきたいのは「板そば」。主に内陸部のお店で出されている木製の長方形の箱型の器（板）に薄く盛りつけたもりそばです。サイドメニューでゲソ天やにしの甘露煮を置いているお店もあり、こちらお書きにありました迷わず注文です。

また、最近県外の方にも人気なのが「冷たい肉そば」もとは河北町の蕎麦屋で出されていたメニューですが、甘じょっぱい汁にやや太めの麺、上には歯ごたえのある親鳥のスライスがのったお蕎麦は他の地域でも出すお店が増え、人気のメニューとなっています。「あったかい」メニューもありますが、冬でも「冷たい肉そば」（山形弁で「冷たい」）が主流です。

ラーメンもそばも両方並び立つのが山形麺文化。蕎麦屋でもラーメンメニューが普通にあります。そんなラーメン文化とそば文化のマリアージュとも言えるのが「鳥中華」。そばダレのスープに中華麺、鳥肉のスライスに天かすが定番。蕎麦屋の隠れ人気メニューが今や全国区。ある意味これぞラーメン県そば王国を代表するメニューと言えるのでは。

さて、山形県ではラーメン県そば王国をPRする動画を制作中とか。ぜひSNSを検索してみてください。ラーメン・そばが好きな方はもちろん、観光客や食べ歩きが好きな方にとって、山形県はまさに天国です。ぜひ一度、このラーメン県そば王国を訪れて、その美味しさと魅力を体感してください。あなたもきっと、山形県の虜になることでしょう。

さあ、今日のお昼もラーメン食べよう！明日はお蕎麦かな。

山形江古田会 須藤 一之（放送・H2年度卒）

■みなさんは直接見たことがありますか？ブルーインパルス！

展示飛行と呼ばれるアクロバット飛行では、映像では伝わらない迫力の航空ショーを見せてくれます。この「ブルーインパルス」は、仙台の北に位置する東松島市にある航空自衛隊松島基地に所属しています。仙台に住んでいても、直接見る機会はなかなかありませんが、東松島方面に出かけると、偶然飛行訓練に出くわすことがあります。そんな時、飛行機好きの私はとても得をした気分になります。

■太平洋の沿岸に三陸自動車道があります。その上り線の矢本PAに、一般道から入る「道の駅 東松島」が2024年11月にオープンしました。遠くに太平洋を望む高台の施設です。ここには展望デッキがあり、景色を眺めるとともに、運が良ければ「ブルーインパルス」の飛行訓練も望めるのです。先日、私は初めてここを訪れたのですが、ちょうど訓練が始まったところ。5+1の機体が、時おりスモークを吐きながら、さまざまな課目を見せてくれました。訓練の予定は、検索【ブルーインパルス基地上空訓練】にあります。また、5番機のパイロットから見たVRの映像体験ができます。高速で飛ぶ操縦席から全方位が見られます。迫力満点です。



■新年会を1月25日に仙台市の居酒屋で開催しました。新年会はコロナ禍の時以外毎年開催しています。今年もゲストを交え14人が集まりました。今年はどんな年になるのか？不安要素山積ですが、それを吹き飛ばすような明るい会となりました。



宮城江古田会事務局長 酒井 健樹（放送・S52年度卒）

■江古田会会員の皆様こんにちは。

新潟江古田会の増井と申します。新潟江古田会は私自身の怠慢の為、会合も会報もすっかりご無沙汰しておりまして、活動をしておりません。ですので、報告事項ありませんが私自身が芸術学部在学中お世話になった木村恵一先生が、先日お亡くなりになったとの訃報を聞き大変ショックを受けております。

先生には四年の時のゼミでお世話になり、写真に対する向き合い方について深くご指導を受けました。

卒業して半世紀ほど経った今、私自身が写真の道を歩いて行けるのは先生のご指導のおかげと思っております。

私は現在ポートレートスタジオを営んでおり、一般の方々の人生の節目節目を記録するお手伝いをしております。感情遺産作りです。昨今はスマホで誰でもが写真を楽しめる時代です。

プリントではなくデータですので撮影した画像を簡単に消去する事もできます。便利な反面、安易な画像が氾濫して写真の価値を下げているように感じられる時もあります。せっかく楽しみながら撮影した写真達がそれぞれの家庭で歴史を育みながら微笑んでくれている。そんな環境づくりに貢献したいと思っています。

すっかり脱線してしまいましたが、木村先生が他界されたとお聞きしたら先生の講義を思い出してしまいました。

新潟江古田会はただいま休会状態ですが、若い会員達を勧誘してなんとか活動できるよう踏ん張りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

新潟江古田会会長 増井 伸一（写真・48年度卒）

各江古田支部の連絡先につきましては、校友会事務局までお願いします。（TEL.03-3554-5363）

2月に郡山市で四季の風コンサートが開かれました。ギターは渡邊華さん。ソプラノは増子菜月さんと二人は日大東北高校から日芸に進学したコンビです。お互いの合った演奏が素晴らしく聴いていても気持ちのいい音でした。



今年は昭和で言うと100年にあたり昭和歌謡祭を開催し歌おうということになりました。歌謡曲は昭和を生きた先輩たちにとっては哀愁や懐かしさを感じます。しかし演奏となるとなかなか息がかわず音が丸くなるまで合わせました。けど断念した曲もあります。次回は写真展をやりまします。スマホで撮った写真で構いません鉄道写真をお送りください。撮り鉄と乗り鉄、歌鉄を交えた企画です。

ふくしま江古田会会長 酒井 泰彦（放送・58年度卒）

“音楽都市こおりやま”市民音楽祭参加行事

日芸ふくしま歌謡祭

2025.4/20日 [開場] 14:30 [開演] 15:00 入場 無料

ミュージカルぐと館 大ホール

2025年は、昭和100年！
それと記念して、日本大学芸術学部OBたちが昭和歌謡コンサートを開催します！
いまでも耳に残る懐かしの名曲を、時代背景を織り交ぜながら奏でます。
昔を楽しく思い出しながら、みんなで一緒に口ずさみましょう！

井上仁一郎	白石 宏道	本橋 祐美子	宮野明日香	遠藤 歩	古賀 徹	瀬谷 好博	酒井 泰彦
-------	-------	--------	-------	------	------	-------	-------

【演奏予定曲】
♪ 藤原義典「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」
♪ 関根あや子「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」 ♪ 関根あや子「大団円」

【主催】日本大学芸術学部校友会福島県支部 ふくしま江古田会
【後援】郡山市教育委員会、福島県文化、福島民生活福祉、ふくしまFM、郡山マニエーション放送コングラ
【お問い合わせ】ふくしま江古田会（酒井） TEL.090-5353-1820

■ノトゲキ番外 能登版銀河鉄道の夜

ノトゲキは、2019年に石川江古田会の瀧腰会員が始められたプロジェクトです。毎年、日芸の学生と卒業生が中心となり、能登演劇堂がある七



尾市中島町の地域の方々と交流・生活をしながら稽古し、演劇を作り上げます。7年目の今年は、地震の影響で能登演劇堂も甚大な被害を受け、舞台が使用できないなか、演劇堂のホワイエでもある展示ホールにて行われました。

一度は開催を諦めた瀧腰会員ですが、「大きい使命や大義名分よりも、楽しい事、娯楽、息抜き、も大切な事」「演劇の上演だけでも届けることも必要なのでは」と思い、意欲が沸いたそうです。出演者と観客が交流し、人が行き交う場所に向かい合うように椅子が並び、今年だけの特別な舞台ができました。出演者の演技と生演奏のギターと歌が相まって、臨場感あふれるお芝居を間近で体感することができました。演劇堂の屋外では地元の飲食店の出店や、石川県立七尾東雲高等学校演劇科の特別上演、音楽ライブも行われました。

■石川江古田会創立10周年記念 日芸コンサート石川

“能登へ響け、希望の音色”をキャッチフレーズに、2024年10月26日ANAクラウンプラザホテル金沢にて開催しました。第1部では宮城江古田会とゆかりのある皆様によるクラシック、第2部はカンツォーネ歌手加藤ジュンコ氏によるス



テージ、アンコールでは干場文夫事務局長もステージで会場の皆様と一緒に「花は咲く」を歌い、能登半島地震と奥能登豪雨からの復興を祈

念しました。会場の出入口では進学相談のブースをはじめ、先日ご逝去されたジャズ写真家中平穂積氏の作品と、画家である西房浩二会員の絵画が飾られました。

石川県出身の俳優、篠井英介氏からもメッセージを賜り、宮城江古田会の皆様には多大なご協力を頂き、当日はスタッフとしても奔走して下さいました。県内各校友会の方々も応援に駆けつけて下さり、多くの皆様のご協賛を賜りまして無事コンサートが成功しましたこと、改めて心より御礼申し上げます。石川江古田会 会報誌『いんぎら〜っと』編集長 太田 有紀（文芸・H19年度卒）

石川江古田会
YouTube



長野江古田会では2024年9月14日に総会と松本街歩きを開催しました。街歩きイベントは2回目となり、今回は国宝松本城と城下町の湧水巡り、そして松本市立博物館を、藝術学部音楽学科のOBで松本でボランティアガイドを務める増田さんに案内していただきました。当日は天気が良く汗ばむ陽気でしたが、川上學部長にもご参加いただき、松本城下町観光を楽しみました。



また、弊会では小規模ではございますが、ご案内を発信できるよう、ホームページを公開いたしました。少しずつですが、活動のご案内やご報告をさせていただけたらと考えております。

こちらのQRコードからアクセスしていただけます。▶▶▶



■地元のオススメ観光地

さて、長野県で今話題の場所と言えば白馬村でしょうか。冬季のスキー・スノーボード観光で100年以上の歴史を持つ白馬ですが、最近ではウィンタースポーツをされない方向けの観光や夏季のスキー場活用を力を入れ「話題の場所」となっているようです。冬季は道行く人のほとんどが外国人という風景も日常となっており、外国人客向けのビジネスもかなり多くなっています。私は先日、白馬村内のスノーボードショップで欧米人の店員さんに英語で接客していただきました(汗)一年を通して、山々の景色が美しい場所です。ぜひお立ち寄りください。



長野江古田会事務局 松沢 彩（放送・H16年度卒）



校友会東京支部として学部のお膝元に誕生いたしました東京江古田会は、関東地区在住在勤の校友間のネットワーク・コミュニティの構築を目指して現在会員増強に力を入れております。

当会では、会員間の親睦・交流を目的として、会員の近況や各種情報（作品・制作・公演・講演・出版・個展・発表会や在籍企業団体の事業内容の紹介など）を当会WEBサイトにて発信しており、会員間の公私にわたる交流の一助となればと考えておりますので、ぜひともご活用いただきたくお願いいたします。

ご希望があれば他地区校友の近況・情報につきましても発信させていただきますので、ご遠慮なく情報をお寄せください。

また今年度より多くの皆さんに参加していただけるよう年会費を廃止いたしました。

入会に際しましては、氏名・卒業学科および年次・連絡先（メールアドレス）の登録となっております。関東地区在住在勤の校友の皆様のご参加をお待ちしております。

なお当会事務局への情報提供・質問・お問い合わせ、また入会登録につきましてはWEBサイトからお願いいたします。

東京江古田会会長 大竹 康道（文芸・S53年度卒）



東京支部
東京江古田会

tokyo.ekodakai@gmail.com

https://tokyo-ekodakai.jp

入会登録・お問い合わせは、WEBサイトをご利用ください

■第7回愛知江古田会総会が、令和6年10月5日（土）名古屋市のELLE HALL Diningで開かれ、来賓3名、会員25名の計28名が参加しました。

総会は、例年通り滞りなく終了し、その後、安部 裕放送学科教授、熊本江古田会より川村晃生事務局長、岡野万里江氏が御入場。

祝辞やお土産を頂き、懇親会がスタートしました。

■今年は、名古屋駅近くにあるお洒落な雰囲気の新会場で、恒例のビュッフェ形式にて再会や懐かしい顔触れが揃い、会食をしながら、各会員の近況報告や新会員の挨拶を聞き、楽しいひと時を過ごしました。

■今年は、田中秀典先輩（放送H8年度卒）、水野陽子氏（演劇H17年度卒）、黒江美咲氏（演劇H24年度卒）が初参加し、より一層若手&女性メンバーも増え続けています。

愛知江古田会の特徴である「平成」と「女性」二つのセイが順調に拡大し、「昭和」「平成」「令和」卒の日芸生が世代を超えて江古田の街や日芸の今と昔について歓談し、懐かしい母校の思い出話に花が咲き、時を忘れてしまう程でした。

愛知江古田会は、益々の発展を目指してメンバーを募集しております。

東海地区在住の卒業生や東海地区に所縁のあるOB・OGの皆様の御参加をお待ち申し上げております。

お問い合わせは、藤田支部長（090-1783-5103）まで。

愛知江古田会副支部長 三富 由杏子（演劇・H15年度卒）



各江古田支部の連絡先につきましては、校友会事務局までお願いします。（TEL.03-3554-5363）

令和6年7月27日岡山市北区石関町「中華ダイニング 餃子屋台」にて総会・懇親会を行いました。芸術学部長校友会からお越しいただいた田中光子副会長を含む13名での開催となりました。

総会では、令和6年度の収支報告が承認されました。懇親会では初顔合わせとなった2名の新入会員の紹介や近況報告、9月開催の作品展へ向けての打ち合わせなどで交流を深めました。



■第10回岡山江古田会作品展

令和6年9月30日～10月6日岡山市北区「天神山文化プラザ」にて毎年恒例の作品展を開催しました。今回は記念すべき第10回目とのこともあり、田中光子校友会副会長からも岡上で撮影した写真作品を展示いただき、出展者16名での展示となりました。これまでの写真、彫刻、絵画、俳句だけでなく、今回は新入会員によるデザインでの展示もあり、新しい形の岡山江古田会の姿を見ていただけたのではないかとではないかと思えます。



岡山江古田会会長 富岡 誠（写真・H16年度卒）

年に1回のお祭り「佐賀江古田祭り（佐賀支部総会）」を、令和6年7月27日佐賀市で行いました。

前年の熊本江古田会の折に、初めて支部の総会に出席された川上学部長に、佐賀には学部長に強烈な印象を与えた教え子がいます。是非佐賀へお越し下さいと懇願。学部長も、佐賀は行ったことが無いので来年は佐賀に行きますとの約束通りにお越しいただきました。

会場は、その教え子の原田健次郎さん（音楽）のお父さん勝美さん（音楽・故人）のお店「JAZZ ライブバー くーぷらん」。顔を合わずや否や学部長大爆笑。

実は、奥様・さゆりさん（音楽）とは学生結婚だったのです。



学部長とさゆりさんの担当教授との間で、うちの娘を略奪するのと、バトルが有ったとか無かったとか。

学部長の爆笑で始まった総会。学部長・堀之内さん（鹿児島江古田会）・川村さん（熊本江古田会）からのお祝いの後は懇親会へ。会員の近況報告の後、突然学部長へリクエスト。林理事長が、日芸の学生にドーナツを配るのを記念して創られた「ドーナツの歌」を大熱唱され大盛会の江古田まつりとなりました。

毎年、いろいろな賞を受賞している朝重さん（美術）、県内はもとより各地でコンサートを開く原田さゆりさん（音楽）、地元ラジオ局の局長兼アナウンサー兼作家の村山さん（放送）、広告代理店で映像全般を仕切っている山下さん（写真）、退職後は写真三昧な山口さん（写真）、ディーラーの社長業で多忙な大橋さん（放送）、初孫が出来てニコニコの正島さん（演劇）、そして世界数十か国を走破中の光野会長（映画）等々。佐賀は、益々元気です。

佐賀江古田会事務局長 土井 洋（写49卒）



～今年「熊本江古田会」は設立40周年～

秋にはアート展と記念式典を開催

■昭和60年11月9日に、全国に先駆けて発足した「熊本江古田会」は今年創立40周年を迎えます。それを記念し、今秋10月22日(水)～27日(月)まで熊本市内の会場でアート展を、10月25日(土)に記念式典・総会を開催する予定です。アート展は10年振りの開催となります。熊本に所縁のある方の出品を広く募集します!!(連絡先は下記ご参照)台湾の半導体企業が熊本県に進出したのに伴い、台湾との交流が盛んになっていて、台湾江古田会さんにも出品を依頼中です。

■「台湾江古田会」と云えば、昨年11月に熊本・佐賀両県の江古田会有志で台湾江古田会に参加するため訪台しました。11月30日の台湾江古田会総会の前日に台北入り。桃園空港では陳宗蔚会長にお迎えいただきました。そして田上峻詞校友会長と台湾新幹線車内で合流、その日のうちに台南へ移動。翌朝、陳会長や林俊宏前会長の案内で市内観光、昼食を兼ねた総会は10名超の皆様に熱烈的な歓迎を受けました。午後のティータイムは、林美吟先輩が設計された台南でも有名な人気カフェ「深藍珈琲館」へ移動。時間を忘れるたのしい午後を過ごしました。翌12月1日は高雄に移動。高雄港エリアの「藝術特区」を散策。半袖で歩く人もいるくらいに暑く、12月なのに台湾かき氷をいただきました。高雄市は熊本県と熊本市と友好交流協定を結んでいます。街のキャラクターはくまモンと兄弟分(?)のかわいい「高雄熊」。親しみを感しました。陳会長は通訳としても付き添っていただき、この場をお借りし心より御礼申し上げます。



写真は台南の路地にて

■熊本江古田会40周年記念アート展に関するお問い合わせは、事務局長の川村(携帯/090-9575-6612)まで。
熊本江古田会事務局長 川村 晃生(演劇・H15年度卒)

■こんにちは!宮崎江古田会です。宮崎江古田会では、2024年9月14日に、総勢14名で宮崎江古田会総会を無事執り行うことが出来ました。この場で新しい会長・副会長・事務局長が決まりましたのでご紹介申し上げます。
宮崎江古田会 会長 竹井 倫世(平成8年放送卒)
副会長 日高 英紀(平成8年写真卒)
事務局長 西條 正晃(令和2年放送卒)

宮崎江古田会をここまで繋いでくださった諸先輩方へ敬意を表し、繋いできた縁を更にひろげていけるように、幅広い年齢の校友の皆様にご参加頂ける、宮崎らしい江古田会となるように精進して参ります。※画像宮崎江古田会



■また11月16日には、お隣鹿児島県にて行われた鹿児島江古田会に参加させて頂きました。九州は各県の江古田会との交流があり、双方に交流しながら楽しく校友会活動を行っています。このような機会があることを沢山の校友の皆様へお伝えしていくよう、今後尽力して参ります。※画像鹿児島江古田会



■次回の宮崎江古田会は、2025年6月を予定しております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

宮崎江古田会会長 竹井 倫世(放送・H7年度卒)

■鹿児島江古田会の総会が2024年11月16日に、ホテルレクストン鹿児島で開催されました。

放送学科教授の星野裕先生、日本大学校友会鹿児島県支部の川畑俊彦支部長、下野善和幹事長、そして佐賀、熊本、宮崎の九州各県の江古田会からもご出席いただき、久しぶりの再会をしみじみと喜び合ったひと時になりました。

■私たち鹿児島江古田会にとって、野田慶元元学部長のご逝去という、悲しい知らせのあった年でした。

会員にとっての野田先生は、学部長という存在も大きいのですが、学生時代に多くの教をくださった教授であり、鹿児島出身の大先輩でもあり、最近では、鹿児島江古田会で満面の笑顔で語られる姿が思い出されます。

来賓でご挨拶いただいた星野教授も、野田先生の数々の逸話を語られ、放送学科出身のメンバーや、野田先生と年の近い先輩方が深くうなずいている姿が印象的でした。

■総会では、会員の有川徹さんによる「九州同人会の思い出」と題した卓話がありました。昭和30年代から40年代にかけて存在したサークルだそうです。その中で「各人それぞれに異なる力や技を持っているのだから、社会のためにこれをいかそう」という話が盛り上がり、夏や冬の帰省時に九州各県の老人ホームや子供たちの施設を巡り、ソフトボールをしたり歌や芝居をしたりと、活動を通して九州の人々を楽しませたそうです。

当時の新聞記事や写真など、先輩方のボランティア精神あふれる素晴らしい活動に誇らしく思える時間でもありました。

■その後は会員同士の近況報告と、楽しい宴の席となり沢山の笑顔がはじけたひとときとなりました。

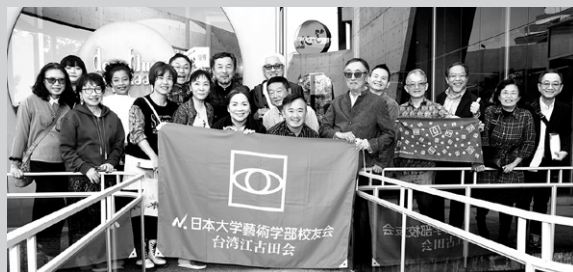
最後になりますが、県外よりご出席いただいた星野裕先生、佐賀江古田会の正島芳子副会長、熊本江古田会の川村晃生事務局長、宮崎江古田会の竹井倫世会長、芸術学部音楽学科講師の袴田和泉先生、ありがとうございました。

鹿児島江古田会 羽山 貴浩（放送・H8年度卒）



2024年5月14日、台北の「演之劇」劇場にて台湾在住の大塚優香さん（映画学科・演技コース卒）と柏原直人さん（文芸卒）によるパフォーマンスの公演がありました。江古田会・台湾支部と日本大学台湾校友会のメンバー合わせて13名が応援、鑑賞のために駆けつけました。

素晴らしいパフォーマンスだけではなく楽しいリズム・ゲームもあり、演者と全ての観客が一体となり会場は大いに盛り上がり、非常に楽しい時間を過ごしました。



同年11月30日、台湾江古田会は10年ぶり四度目の台南における例会を開催いたしました。本例会には日芸校友会の田上峻詞会長ご夫妻、熊本支部の奥村会長、佐賀支部の光野会長、川村事務局長および土井氏一行が日本よりわざわざご訪台、ご参加頂きました。日本から6名、台湾側は15名、合わせて21名が集まりました。台湾メンバーは台北、台南、高雄、花蓮、屏東の台湾各地からの出席でした。午前中は、地元の台南出身である林俊宏前会長がオランダ統治時代に建設された安平古堡（ゼーランディア城）を紹介してくれました。昼食前には、遠距離ビデオ電話にて原先生と高橋先生よりご挨拶を頂きました。二次会では、ミルフィーユで有名な「深藍珈琲館」でティータイムを楽しみ、参加者同士で更に交流を深めました。深藍珈琲館のデザインは日芸卒の林美吟さんに手掛けられ、商品パッケージは日本のグッドデザイン賞を受賞しています。夜は昭和7年に南台湾初のデパートとしてオープンした「林百貨」を観光し、まるで昭和時代にタイムスリップしたかのようでした。最後の締めとして、台南で決して逃してはならない食べ物といわれている牛肉スープを堪能しました。この牛肉スープは、当日しめたばかりで冷凍されたことのない新鮮な牛肉のみを使用し、これをさっとお湯にくぐらせて温めるのみで牛肉の旨味を引き出し楽しむのです。皆様もしも台湾の台南へお越しになる機会があれば、是非ともこの牛肉スープをお試ください。

台湾江古田会会長 陳宗蔚（写真学科平成17年卒）

ウンレン・ブンレン

運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中

創立70周年に向けて奮闘中

日本大学芸術学部 文化部連盟 殺陣同志会

『はじめは昭和33年。この年は大変話題の多い華やかな年でした。中でもトップニュースは当時の皇太子殿下明仁親王のお妃に平民の正田美智子さんが決まったことでした。皇室史上初のことです。プロ野球にもビッグニュースが。六大学のスター、長嶋茂雄が巨人軍に入団。開幕戦で剛腕金田選手を相手に、4三振の派手なデビュー。ご存じミスタージャイアンツの誕生です。首都のランドマーク東京タワーが完成し、一万円札が発行され、インスタントラーメンの元祖チキンラーメンの発売は画期的でした。』

そんな折に練馬は江古田のとある下宿屋。その裏庭で、日芸の学生が木剣を手にチャンバラごっこ。ごっこが高じて下宿の裏庭では飽き足らず、こともあろうに授業の合間にキャンパスでエイヤ!と。そのチャンバラごっこにいつの間にか3人、5人、8人と仲間が…そんなこんなでチャンバラ好きの有志が集まり、全国の大学でははじめてチャンバラを研究する部活動、殺陣同志会が誕生したのであります。』

これは、平成30年(2018年)に開催した殺陣同志会創立60周年記念公演のオープニングでのナレーションの一節です。本公演は芸術学部の顔とも言える中ホールを借りて、記念公演としては創立以来最大規模となる舞台を上演することができました。この勢いで65周年、70周年と続くものと誰もが確信していました。ところが…

2020年の春のこと。新型コロナウイルスは大学の学びに大きなインパクトを与えるとともに、学生の特権とも言える部活動も停止に追い込んでしまいました。このままでは60年続いた殺陣同志会の伝統が途絶えてしまうという危機感

から、その年にオンラインで稽古ができないかと数少ない新入部員に着付けや所作、剣さばきなどを画面越しに教えるなど、先が見えない中、細々とではありましたが活動していました。

時は流れ、感染者数の減少とともに入構制限が緩和され、徐々にキャンパス内に学生の姿が戻ってくるようになりました。条件付きで部活も再開されましたが、約2年間というものともに稽古ができていませんでしたので、殺陣のレベルは以前に比べかなり低下してしまいました。それでも片手ほどの人数の部員たちが残り、なんとか部を存続させてくれたお陰で、週に数回の稽古ができるまでになりました。またコロナが5類に移行されてからというもの、刀剣乱舞などの2.5次元人気も重なり部員の数は急激に増えるとともに、殺陣同志会のOBでハリウッド俳優の真田広之氏が「SHOGUN」でエミー賞を受賞するなど、同志会にとっても追い風ムードの中、ついに昨年10月には学外の劇場で自主公演を行うまでになりました。まだまだ、技術的には課題だらけですが、チャンバラが好きで集まった創立メンバーの志は絶えることなく受け継がれてきたことを誇りに思います。

現在はOB・OG有志が連携して稽古に参加し技術指導にあたるなど、仕事で忙しい中にもかかわらず、現役のレベルアップのために日々奮闘しています。そして、4年後に迎える創立70周年記念公演で殺陣同志会が完全復活した姿をお見せできればと存じます。どうぞご期待ください!

殺陣同志会 相談役 デザイン学科 長瀬 浩明
(昭63年度卒・殺陣同志会29期)



春合宿での立ち回りの稽古
(2025年3月17日 ベルデ軽井沢にて)



自主公演の舞台上で
(2024年10月25日 三鷹芸術文化センター「星のホール」にて)



昭和50年 江古田 マップ



練馬総合病院

剣菱

喫茶ジロー

生そば増田屋

東宝バーラー

喫茶サウオイア

田中歯科

麻雀太郎
麻与彌モ

山賀電気

金鶴寿司

花屋

長寿庵

文華堂

大衆食堂
ぎんなん

不動産

CABARET
ロンドン

黒田武士

江古田食堂

ムサシノ写真館

演劇学科

図書館

放送学科・音楽学科

スタジオ

映画学科

文芸学科・
事務局

写真学科

美術学科

食堂

ここが
日藝っ!!

平利道場

2Fサッポロ
ラーメン
1Fブラスワン

雀荘旭

大盛軒

立喰いそば
(新橋)
立喰いそば
(茗荷)

洋菓子
アンデルセン

・リースビル
・カフェ木琴

JAZZINN

交

喫茶パロン
パン屋

邦画3本立
江古田文化劇場

江古田コンパ

Coffee
飛騨

ポニー



はやかわ ひなの

©日藝校友会

2024年 日藝祭報告

令和6年（2024年）11月2日（土）～4日（月・振替休日）の3日間に開催された日藝祭の報告です。

今年も日藝祭実行委員会に校友会から10万円の寄付をしました。

今年はコロナ禍前に戻り、西棟学芸員実習室で校友会「お休み処」を開催。文芸学科卒業生の文芸学科青木教授の鉄道ジオラマ展と写真学科卒業生による鉄道写真展を開催しました。

連日大盛況で多くのお客様にご来場いただきました。

文芸学科主任の青木敬士教授（文H4年度卒）は、故郷・苫小牧市の町並みを1/150で再現して「TMSレイアウト・コンペ2021」の入選1位のジオラマ作品の鉄道模型を展示し、精密なジオラマの中を走る車両に子どもも大人も見入っておりました。

写真展は、写真学科の卒業生で2011年から毎年鉄道写真展を開催している「髭おやじとゆかいな仲間たち」（鈴木孝史、石吾克也、市川達也、梅村貴子、鯉江 充、小泉誠之、齊藤巧介、下妻孝彰、田中光子、寺澤秀治、服部一人、山下大祐）による鉄道写真を展示しました。



2025年の日藝祭は、**11月1日（土）～11月3日（月・祝日）**です。
近くなりましたら、芸術学部および校友会のホームページでご確認ください。

野田慶人先生を偲ぶ会

令和6年9月3日に逝去された野田慶人先生を偲ぶ会「野田鎮祭」が、令和7年3月15日にハイアットリージェンシー東京のセンチュリールームで執り行われました。

野田慶人先生は昭和25年鹿児島で生まれ、昭和44年私立ラ・サール学園高等学校を卒業。

昭和50年日本大学芸術学部放送学科を卒業。

平成19年日本大学副総長。

令和5年日本大学名誉教授。

令和6年従五位瑞寶章を受章。

令和6年9月3日74歳でご逝去されました。

野田鎮祭



今昔江古田B級グルメ



今回は、「今昔江古田グルメ」と称して、先輩諸氏が親しんだお店の今を探访しようとしたが、なかなか資料が揃わず、残念ながら断念。

しかし、三大牛丼の一角を占める「牛めしの松屋」の第1号店が江古田にあって今も営業中なのはあまり知られていない。中華料理の松屋から牛めしに代わってこの地でオープンしたのは1968年。

お店自体はスタンダードな「松屋」だが、第1号店だけあって店内には「第1号店」をアピールする掲示がいろいろある。

2024年7月現在の国内店舗数は、1046店。牛丼チェーン国内第3位。立派になったものだなあ。そして今、江古田で話題になっているのは、立ち食いそばの「のじろう」。

2020年12月15日オープンなので、先輩方には馴染みがないお店だろうが、美味いと評判の店で、タレントのドラック塚地が案内役の立ち食いそば番組で、日芸と一緒に紹介さ



れて、人気は全国区になった。2024年には十条にも出来た。どちらが本店なのか判らないが。

江古田は「立ち食いそば不毛の地」と呼ばれていたらしい。小生が学生の頃は駅のすぐそばに2軒あったけれど、早々に閉店してしまって、この「のじろう」が出来るまではお店がなかったらしい。

ここのウリは「肉そば」。旨味が強く濃いお汁にコシの強いそばに、柔らかく煮込まれた豚バラと白髪ネギがたっぷりと乗っていると評判で、学生街ならではのボリュームもある。

とは言え、今回小生が食べたのは、これも評判の「かき揚げそば」。

田舎そばのような黒っぽい蕎麦はもちもちで、出汁が効いた強めもお汁とよく合って美味しい。そして、かき揚げが分厚い！サクサクで、食べ応えがある。後味もサッパリして人気があるのも当然だと思う味。

今の江古田が誇る立ち食いそばだ。(Y)

令和7年賀詞交換会を開催しました

令和7年1月18日(土) 15時より芸術学部江古田校舎において芸術学部校友会常任幹事と芸術学部執行部の共催で賀詞交歓会を開催しました。

日藝博覧会開催！

令和7年3月1日(土)～16日(日)に、
日藝博覧会が開催されました。
下記リンクよりアーカイブをご覧ください。
<https://www.art.nihon-u.ac.jp/about/sotsuhaku/>

新入生歓迎式

令和7年4月8日(火)、日本武道館で日本大学の入学式が行われ、同日午後には江古田校舎大ホールにて芸術学部の新入生歓迎式が行われました。

校友会事務交代のお知らせ

校友会事務局員の星野祥子さんが3月末をもって退職し、4月1日より派遣社員の北村香織さんに交代しました。
皆様よろしくお願い致します。

日本大学芸術学部校友会奨学金「日藝賞の卵」給付者決定

在学する2年生が3年生となり新学年に、学内外における諸活動において実績をあげた学生を各学科の推薦を元に、年間10万円を給付するものです。第2回の給付生は以下の通りです。

〈写真学科〉佐藤 心花	〈映画学科〉中北 凛
〈美術学科〉永田 琴乃	〈音楽学科〉吉田 紗瑛
〈文芸学科〉福島もも子	〈演劇学科〉枯芝 千夏
〈デザイン学科〉山口 朋華	

学生諸君の創作活動の励みのアシストになれば幸いです。



25－26ページ 絵地図の説明

田上会長と私は昭和50年入学で「0」番台。何か企画が出来ないかしら？
と思いついたのが、思い出のお店を書き込んだ絵地図。言葉なんて不要。
絵地図をずっと眺めていられるようなものにしたくて、周りの方々にご協力いただき、思い出のお店を集めてデザイン学科2年生（現在3年生）の早川ひなのさんに作成していただきました。思い出のお店が無かったり、位置が違っていたらごめんなさい。
(会報誌委員・T)



RENEWAL！

校友会ホームページがリニューアル！
是非、ご覧ください。
そしてお活用ください。



住所変更等のご連絡について

住所等の変更がありましたら校友会事務局までご連絡ください。市町村区の合併等で番地が変更になられた場合もご連絡お願いいたします。

校友会事務局

〔電話〕(03) 3554-5363

〔メール〕ekoda.koyu@gmail.com

〔HP〕<https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

同窓会支援プロジェクト

校友会が同窓会開催のお手伝いをします。

校友会名簿をもとに、同窓会開催の案内郵送の住所ラベルにプリント、封筒貼りから発送など、実費で引き受けます。

(ご期待に沿えないこともあります)

詳しいことは校友会までお問合せください。

お知らせ

- * 会報誌の発行が、経費削減のため年1回になりました。
- * 総会の返信ハガキのコメントは、今後会報誌やホームページに掲載されることがあることをご了承ください。

寄付のお願い

皆様からの寄付を募っています。

1口3千円で何口でも寄付を受け付けております。

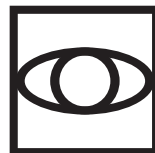
寄付金は校友会活動委有効に使わせていただきます。

振込先などのお問合せは日芸校友会事務局まで。

編集後記

鶴巻監督のファンなので『機動戦士Gundam GQuuuuuuX』は初日に行きました。この映画は『ガンダム』というコンテンツをグランドナラティブに引き上げる作品だと感じています。その証しとして『ジークアクス』を観た人が初代ガンダムの視聴を始める現象が各所で観測されており、大きな物語を感じようとする構造を仕掛けたクリエイターの技に僕も震えています。

(青木)



日本大学芸術学部校友会

日本大学芸術学部校友会報・第114号

2025年号 ● 令和7年5月発行 ●

非売品

不許可転載

- 発行人 田上 峻詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 青木 敬士、鯉江 充、山本 英史
- 表紙 東 倫太郎 (2024年度卒)
「蹄跡は風と共に」
- 印刷所 株式会社タスプ
東京都板橋区小豆沢2丁目9-19
電話 03-5970-3990

- 発行所 日本大学芸術学部校友会
〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
- 事務担当 北村 香織
星野 祥子 (令和7年3月退職)
- URL <https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>
e-mail ekoda.koyu@gmail.com



8つのアート1つのハート

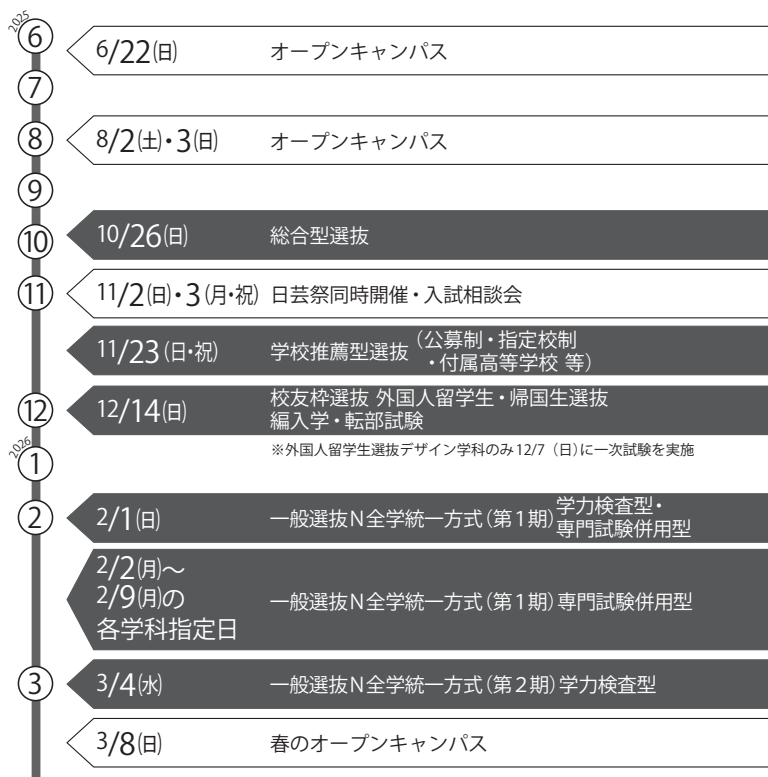
日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学院芸術学研究所 ◆

◇博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻
◇博士後期課程／芸術専攻

2026年度 入試広報カレンダー



8つのアート1つのハート



日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘 2-42-1